

はっ  
**初あげと**  
 あおたまつり  
**青田祭**

**上西だより**  
 ～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課  
 上西集落支援員  
**馬場 信一 編集**  
 連絡先090-9579-3953  
 上西校区長責任発行

毎年この時期になると、大広野神社で初あげと青田祭が行われます。6月18日（日）、小雨のなかで大広野神社を訪ねました。



田の神様の前で祈願する  
 河口末男さん 昭和30年代

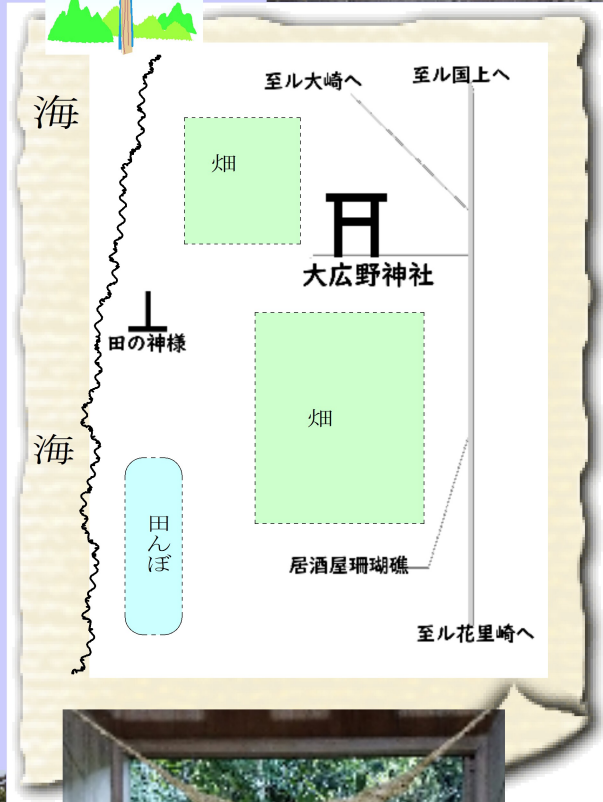


県道から20歩下るとそこは大広野神社。深い緑に包まれて、走る車のざわめきはここまで届かない。

一瞬にして幽玄の世界に迷い込んだかのような時間を味わうことができる場所。



田の神様に至る道のりを伐採整備



麦団子を奉納。麦は初夏に収穫される。一番最初に刈りとった麦で団子をつくり、収穫の喜びを神様に感謝して献上する。これを「初あげ」という。



米・塩・焼酎・シンシバが供えられる。



進行役の河口和広さんが「いなし（＝結制度）」について解説された。田植えが機械化される前の昭和30年代、稲作の思い出で座がとても盛り上がった。今では田植え後の稲の成長を祈る「青田祭」を「初あげ」と合わせて行う。



今年の青田祭で五穀豊穰を祈願する長野恒明さんと川口政洋さん



大崎一班を大広野と呼び、現在8世帯数で人口は22名。大広野は中世（江戸時代）まで不審な船を見つけると、火立ノ峰で烽火（のろし）を上げて大隅と屋久島に合図を送る役目をもつ人々の集落（詳細は29号を参照）でした。島津藩の軍防を任された役人であり給与を与えられますが、生活するにはそれではならず、自らの手で食料を得なければならなりません。開墾された農地で収穫された作物のひとつである麦は、団子にして神様に供えられたのです。奈良時代から烽火の制度と結びついていた大広野の人々は、今年も麦団子をつくって神様に五穀豊穰の祈りを捧げました。